

ヤマユリ通信 開花

vol. 1-2

麻生区協働推進事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 H21. 9. 28 発行



◆もくじ◆

- *ヤマユリ開花マップ作成！！
- *「国営・武蔵丘陵森林公園」で再生ノウハウを学ぶ
- *折り紙講習会 美しいヤマユリの折り紙を作って 部屋に飾りたい！
- *7～9月 植栽地便り！ 植栽活動に備え管理整備する季節

ヤマユリ開花マップ作成！！

わずかに残るヤマユリ

今年も7月初旬から7月下旬頃まで、麻生区内の里山・緑地にわずかに残るヤマユリが美しく芳しい大輪の花を咲かせてくれました。

直径15～20cmもある大輪のこの花は、白い花びらの内側に黄色い筋と赤い斑点という華やかな色彩で、山野に漂う甘く強い香りは、他の花を圧倒する存在感があります。

麻生ヤマユリ植栽普及会では、昨年度からヤマユリの生息地のマップ作成を進めています。開花の時節でないとヤマユリであるかないかの判断が難しいために、この時節に情報を収集しています。今年も調査区域を広げ、会員同士で地域を分担して散策調査を行いました。

その結果、当会が活動支援している化粧面谷公園、下麻生まつの木緑地、梨子ノ木緑地、おやしろ公園、授産学園緑地、市民健康の森など

生息地は、20数か所!?

6つの植栽地。その他、早野緑地公園、2,3の社寺の境内、個人所有の緑地など、20数か所をリストアップできました(下図参照)。今年新たな生息地として、片平地区に2、上麻生・下麻生地区に4、隣接する三輪地区に1の計7か所で確認できましたが、三輪地区を除いて、ほとんどが狭い場所に数本を認める程度で、将来を危ぶむ報告を受けました。

ただ、ヤマユリの開花本数は、年によって異なり、「去年は数本程度であったが、今年は数十本も開花していた」との報告もありますので、今年少なかった場所でも来年は増えるかもしれません。

緑地でのヤマユリの保全は、地域のみなさんのご理解とご支援が欠かせません。お住まいの近くのヤマユリの情報などお気づきのことがありましたら事務局にご連絡をお願いします。



数万本のヤマユリ自生地！

「国営・武蔵丘陵森林公園」で再生ノウハウを学ぶ

ヤマユリの開花に合わせて7月24日、麻生区内の植栽地ボランティアのみなさまと共に、自生地として有名な国営・武蔵丘陵森林公園へ視察研修に出かけました。



▲紅筋ヤマユリ(花びらに紅色の筋の入った変種)



▲帯化ヤマユリ(茎が帯状に変形し40もの花を付けた奇形種)



当森林公園は、埼玉県比企郡滑川町にあり、東武東上線の森林公園駅からバスで10分程で行けます。広さは304ha（東京ドームの約65倍）という広大な緑地帯のあちこちに、数百本の開花ヤマユリの群落が点在する自生地です。

台風の余波で悪天候が懸念されましたが、散策中は青空が出るほど回復し、飯塚園長自らの引率指導を受けながら散策研修ができました。

「かつて、この地域一帯は「東松山」の地名があるように松の山林地域でしたが、全国的に広がった松喰い虫の被害を受け、今日では、この公園内のみのが保護林として残った。幸いにもこの松林が、ヤマユリの自生地として絶好の環境を形づくっている。」とのこと。実際、30メートル以上、高くそびえる松林の地表は、アズマネザサがほどよい丈に刈り込まれ、その中からヤマユリが数百も茎立ちし、大輪を咲かせる景色は、なんとも壮観そのものでした。参加者一同、何とも心癒される景色に浸り、ヤマユリ再生のポイントを学ぶことができました。

●ヤマユリ自生地、再生のポイント●

- ①花も個体差あり、色合いが異なる。(変種：紅筋ヤマユリ、口紅ヤマユリ、奇形種：帯化ヤマユリなど) (写真参照)
- ②日差しの違いで葉の付き方が異なる。
- ③下草刈り：年に2回程度、6月頃：草丈30～40cm程度刈り残す。晩秋：地表まで刈り込む。
- ④間伐を適切に：終日強い日差しはダメだが、樹木の茂り過ぎもダメ。半日陰が最適。
- ⑤植栽地にむやみに踏み入らない。さわらない。
- ⑥病虫害(コウモリ蛾の幼虫、アブラムシ、葉枯れ病(ポトリチス))で傷んだヤマユリを観察。

区役所のロビーにも ヤマユリが咲きました！！

昨年12月に開催した「第2回ヤマユリの鉢植え講習会」の成果が、今年7月、麻生区役所のロビーで開花しました。大輪の花の美しさに加えヤマユリ独特の香りがロビーに漂い「ヤマユリって、こんなに美しく芳しい花だったの？」と、区役所を訪れる市民のみなさんの明るい歓声を呼びました。

今年も11月25日(水)第5回講習会を開催の予定です。



美しいヤマユリの折り紙を作って部屋に飾りたい！



▲”難しい紙折りの部分は、このように！”小松原講師

去る9月17日午後、折り紙でヤマユリのブーケを作って楽しむ会を、「交流館やまゆり」を会場に20数名の参加者によって開催しました。麻生ヤマユリ植栽普及会の女性陣が、教材の開発から指導の仕方まで半年がかりで研修を重ね技術を修得して講師を努め、参加者同士の交流の機会を持つことができました。

<第1部> ヤマユリの花の折り方

折り紙ヤマユリは、単純に見えても年配者にはいささか複雑で、簡単には折り進めません。

小松原洋子さんをメイン講師に、班別テーブルには会員のサブ講師が張り付いて細かく指導。

準備された資材は、和紙30cm大の正六角形の用紙、雌しべ用雌しべ用の針金など。

まず、用紙の対向する頂点同士と辺同士が重なるように半分に折っては広げ、折っては広げる作業を6回繰り返す。

次に裏返して折り目と隣の折り目の半分の所で中心を通るように二つ折りする。広げては折り、広げては折りで6回繰り返す。これが結構難しい。折り終わると扇子をたたんだような形

になる。「このように折れましたか」と講師の声が響く。みな夢中に折り進む。サブ講師が手取り足取り。続いて、折りツルの羽を折るように一枚ずつ折り進む。この所がまた難しい。折り目が皺だらけになる。この作業が、さらに3段階も続き、ようやく折り上がりです。

次は、開花ヤマユリの写真を参



▲”本物のヤマユリのように！”熱く解説する細貝講師

考に着色の段階に移る。

ヤマユリの黄色の筋と赤い点々を付ける作業。何とか着色まで終える。互いに批評し合って歓声上がる。ここまで約1時間、全員、ほっと肩の力を抜いて休憩です。

<第2部> アレンジ・組み立て方

休憩後は、葉の作成、雄しべと雌しべの作成。メイン講師は、手芸のプロの細貝初子さん！

アートフラワーの技法で葉の作成指導、「葉の自然な曲がり、このようにして形づくりします」などと実演指導。続いて、実際の雌しべや雄しべの形に似るように助言してまわる。受講者は「年若い指がうまく動かない」といながらも熱中し口数少なくなる。

後は、組み立て、雌しべと雄しべを折り紙ヤマユリに取り付ける。「葉の付き方も実際のヤマユリを思い起こしながら手直しして！」と細貝講師が、机間巡視して手取り足取り。会場から「これで、孫と一緒に作れる」と歓声！拍手！全員、それなりの折り紙ヤマユリが完成しました。全行程2時間でした。

大きな達成感を得ました！

●始まりは、「武蔵丘陵森林公園」で求めた折り紙が発端！

夏の暑さのなかでも、すがすがしい咲き姿を見せるヤマユリは、他の花を圧倒するほどの美しさがあります。このヤマユリを基本から学びたいとの思いで、前ページでも紹介した「武蔵丘陵森林公園」に昨年度も研修に行きました。

その園内の売店で美しく彩色された見事な折り紙ヤマユリを、小松原さんが目ざとく見つけて買い求めたところ、「これを真似して作って、10月の麻生区民祭にヤマユリをPRできない？」と、他のメンバーからの声かけがあり「もしかしてできるかもしれない」と思ったのが始まりです。会長の励ましもあって、「安請け合いはしたものの、さあ、それからが、大変！」

●まず真似して作って見た。

「求めた折り紙ヤマユリを広げては折り戻し、また広げては折り戻しを繰り返す。寸法も測り手順図の原稿

を作る。和紙を買い求めて折ってみる。何とか形になるが、どうしても仕上げの折りの部分が上手くない。そんな思いのまま、当会の定例会に持ち込み、みんなの意見を聞きました。そんな出来映えでも“美しく素敵”とみんなに感激していただいたので、すっかりその気になって、“もっとしっかりした物を作ろう”と、のめり込んでしまいました。」と…。

●講習会に向けての教材づくりの思い

今年21年度の当会の行事として決まり、本格始動しました。「折り紙ヤマユリの作りを全面的に再検討し直しました。“少しでも多くの方に真のヤマユリの姿を知ってもらいたい”との思いで、開催まで7回の会合を開き、その都度、6名の女性メンバーが連携して取り組んできました。」と声が弾む。「教材の図解は、矢島さんに、葉や雌しべ雄しべのアレンジと組み立ては、細貝さんにと、いずれも、プロの支援により、成功の内に終わることができました。」と、みなさんの努力と協力に感謝、感激。

(「武蔵丘陵森林公園」から折り紙の複製許可済み)

8～10月植栽地便り！



植栽に備え管理整備する季節

●虫や野鳥から守る袋掛け作業

植栽地では、ヤマユリの開花が終わると種の朔の袋掛け作業を順次行います。8月26日には、おやしる公園でのヤマユリの朔の袋掛け作業を行いました。普通は、花が散って1週間もすると雌しべのつけ根の部分が膨らみはじめ、朔の生長が確認できます。そ

のまま順調に朔が生長すれば10月はじめ頃には、大人の親指ほどになり種の実り期を迎えます。しかし、実りの時期までに朔の多くは、害虫や野鳥に食べられてしまいます（左図）。

ここ、おやしる公園では、7月初旬植栽したヤマユリの十数株に、それぞれ3～5つの大輪が咲きましたが、袋掛け作業の時期が遅れたため、既に虫に食べられた朔もありました。メンバーと協力して、生長の悪い朔の摘取り、袋掛け、つる草取りなどの作業を終えましたが、元気に結実しそうな朔は、全体のおよそ三分の一の16朔でした。

11月の実りを待って朔を採取し、種の選別と殺菌の後、植栽地に種蒔きする予定です。

秋に蒔いた種は、1年目は地下発芽のみ、2年目の春に初めて地表発芽し秋には枯れます。また翌3年目の春に発芽し、秋には枯れるを繰り返し、ようやく5年目の夏に開花を迎えます。



▲袋掛けした朔(左)、虫に食べられた朔(右)

◆豆知識◆

なぜ、夏に生息地の下草刈りはいけないの？

次の3点から考えてみたいと思います。

その1: 球根の生長を止めて、絶滅させる。

自生地には、大きく茎立ちしたヤマユリの周辺には3cm～30cm程度に生長した2、3年もの若株がたくさんあります。夏季に下草刈りをすると、



▲開花ヤマユリの周辺が刈り取られた自生地

この若株を刈り取ってしまい、球根の生長を止めることとなります。これが繰り返されると、やがてヤマユリは姿を消してしまいます。

その2: 病害虫の集中攻撃にさらされる。

山野の動植物は共生しています。ヤマユリのみを残して周りの草木を根元から刈り取ると、そこに生息していた昆虫類は、行き場を失い残されたヤマユリに集中します。守ったはずのヤマユリは、病害虫に冒されてしまいます。守るために薬剤散布しては、自生地にはならないでしょう。

その3: 生育の土壌が乾燥してしまう。

ヤマユリの育つ環境は、土壌に適度の湿り気が必要です。夏の直射日光から守ってくれる下草がないと地温が上がり株が弱ってしまいます。

以上の3点から、良かれと思って夏季の下草刈は、何としてもやめなければなりません。やるとしても、せいぜい伸びすぎた草木の葉先を縮める程度にとどめることが肝要でしょう。

会員募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら里山で汗を流してみませんか。

年会費：1,200円

定例会議：原則、毎月第二火曜日午後

会場：会議は交流館やまゆり、ほか

植栽活動：指定の各緑地（月に1～2回）

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

10月～12月の主な予定

10月 ヤマユリ植栽地整備活動（4か所）

11月8日 梨子ノ木緑地ヤマユリ植栽活動

16日 川崎市立南百合丘小40周年記念

ヤマユリ植栽会

25日 ヤマユリ鉢植え講習会

12月初旬まで ヤマユリ植栽活動